

秋田はまるごと博物館

# 文化財探訪ツアー

湯沢・雄勝伝統芸能と美酒の里コース



川 連 漆 器(湯沢市)



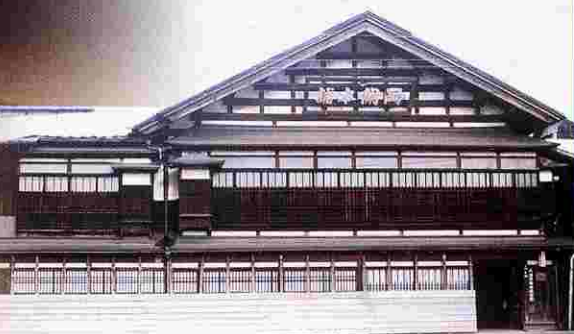
両 関 酒 造(湯沢市)

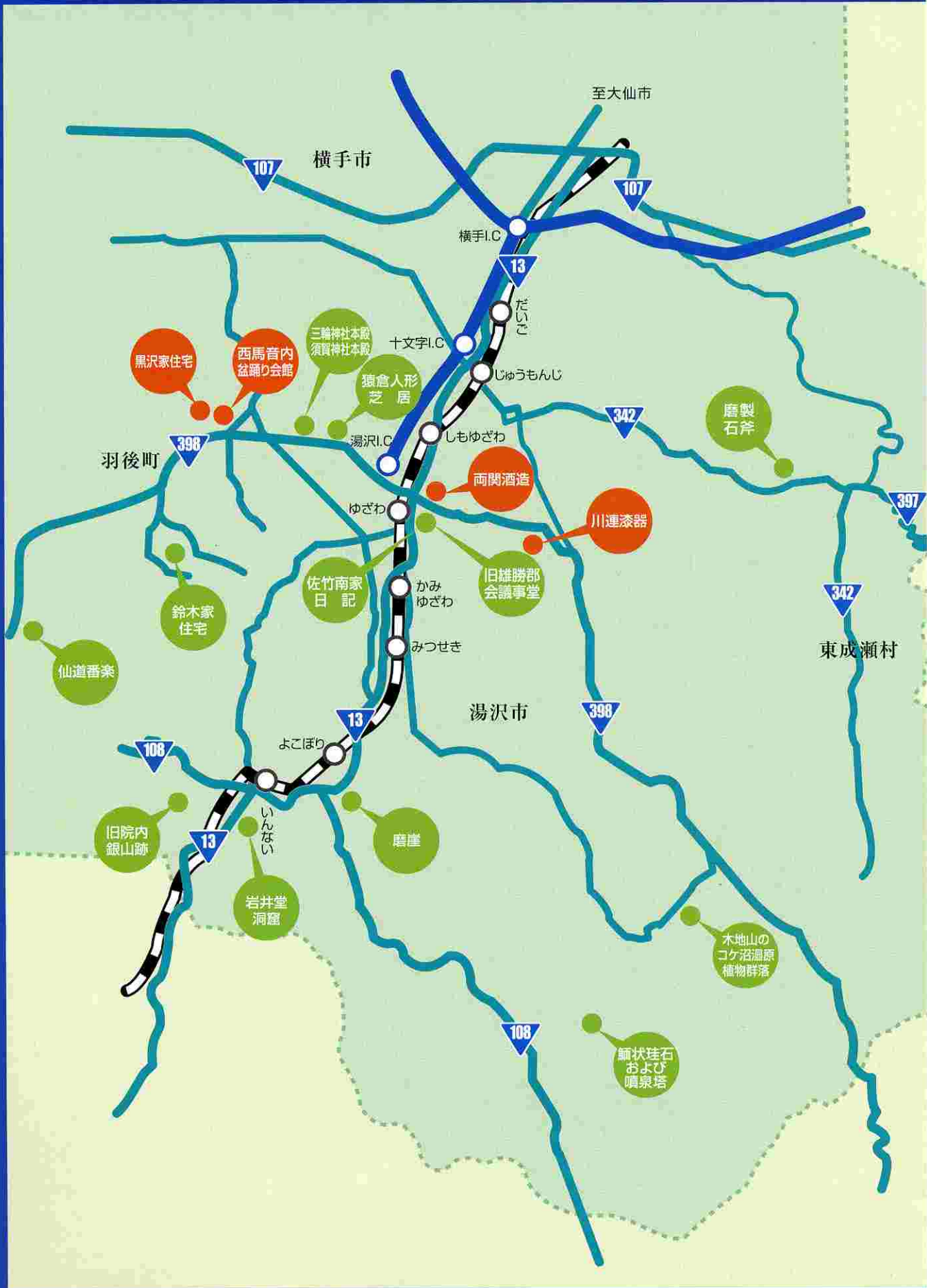


西馬音内盆踊り会館(羽後町)



黒 沢 家 住 宅(羽後町)





# 湯沢・雄勝 伝統芸能と 美酒の里 コース

## 川連漆器

## 両関酒造

## 西馬音内 盆踊り会館

## 黒沢家住宅

### 川連漆器

川連漆器は、今から800年前農民の内職として武具の漆塗りから始まったとされています。産業の基盤がつくられたのは約400年前で、日用雑器としてお椀作りが始まったことが記録に残っています。この流れで今も生産の6割が椀類ですが、小物から大物、丸物から角物まで何でも作れる器用な産地として名高く、箸から家具まで幅広く漆器製品を生産しています。

荒挽き(阿部博氏宅)

木取りされたブロック状の木片をろくろに取り付け、外側を荒く挽いて内側をくり抜きます。

下地塗り・中塗り・本塗り(佐藤商事)

下地塗りは、木地の凹凸をなくし木地に漆を吸わせて強度を増します。中塗りは塗りの強度をますために生漆の入った漆で塗ります。本塗りは、塗りの最後の工程で、色々な色漆で仕上げていきます。なお、下地塗り・中塗りのあとには塗りの凹凸をさらに研ぎ上げる下地研ぎ・中研ぎの工程が入ります。

### 【国伝統的工芸品】



### 両関酒造

両関酒造の本館は、大正12(1923)年の両関酒造全盛期に事務所併用住宅として建築されました。伝統的な町家形式の意匠による建物で、大屋根の妻入部分が事務所となり、接続する平入部分が住宅部分となります。繊細な格子が付けられた窓と妻部分にみられる和小屋の骨組みがとてもきれいです。また1号から4号の酒蔵はすべて土蔵造で屋根、壁とも漆喰仕上げとなり、大屋根でおおわれています。

### 【登録有形文化財】



### 西馬音内の盆踊

今から400年ほど前に、蔵王権現の境内で踊ったのが最初といえます。踊りや衣装に古い形を残し、踊り衣装は浴衣と古い布切れを接いで縫ったこの夜だけ着る端縫いとはあります。かぶり物も編笠と顔を黒い布ですっぽりと覆い、目だけ出す彦左頭巾があり、亡くなった人を象徴するものといえます。囃子はガンケなど4曲です。

### 【重要無形民俗文化財】



### 黒沢家住宅

羽後町西馬音内の中心部にある江戸時代の町家の建築様式を伝える住宅です。黒沢家は代々染物屋を営み屋号を染屋と称し、江戸時代後期には西馬音内村の肝煎をつとめたといわれています。住宅の主屋は、木造一部2階建、切妻造で細長く奥行きのある短冊形の敷地に建っています。主屋は、正面右側1間がトオリ土間で、トオリ治いの前面に4部屋、奥に2部屋をとっています。またトオリの奥には土蔵造りの内蔵が並んで建っています。建築年代は、ダイドコロ付近の梁3本に毎年巻かれた火伏縄によって江戸時代末期と推定されています。

### 【県有形文化財】



# 湯沢・雄勝のおもな文化財

## 岩井堂洞窟

国史跡

湯沢市(旧雄勝町)

雄物川上流にある県内で数少ない洞窟遺跡です。4つの洞窟があり、最も保存のよい第4洞窟は、一番上の層から平安、弥生、縄文時代晩期・後期・前期・早期の土器が時代ごとに層位的に発見されています。

## 旧院内銀山跡

県史跡

湯沢市(旧雄勝町)

江戸時代初期に発見され、秋田藩により開発が行われました。たくさんの銀が採れ、最盛期には久保田城下をしのぐほどのぎわいをみせたそうです。はやぶさ坑、五番坑、金山神社が県の史跡に指定されています。

## 磨製石斧

国重要文化財

東成瀬村



4本の長大な磨製石斧です。最も長いものは長さ60.2cm、幅10cm、重さが4.4kgで日本一の大きさです。石斧は両側を擦り切って形をつくり整形したものです。縄文時代前期の祭祀の道具で、まとめて埋納されたものと考えられています。

## 鈴木家住宅

国重要文化財

羽後町



鈴木家は、源義経の郎党鈴木三郎重家の末裔と伝えられ、江戸時代には代々肝煎を務めた豪農でした。住宅は、主屋の前面に突出部を付け後ろに土蔵を接続した中門造で、17世紀の建造と推定されています。

## 三輪神社本殿、須賀神社本殿

国重要文化財

羽後町

三輪神社本殿は、三間社流れ造り、向拝一間、銅板葺(旧柿葺)で、その形式や技法から室町時代後期の建立と考えられています。

須賀神社本殿は、建築部材の墨書から正保4(1647)年に建立されたことがわかり、桃山様式を色濃く伝えています。

## 旧雄勝郡会議事堂

県有形文化財

湯沢市



県が雄勝郡役所の議事堂として明治24(1891)年に建築したもので、県内に残る唯一の明治期行政関係の建物です。木造寄棟造総2階建ての洋風建築で、ドイツ人技師の設計をもとに、棟梁阿部孫四郎の手によって建てられました。

## 佐竹南家日記

県有形文化財

湯沢市



佐竹南家日記は、天和2から慶応4(1682～1868)年まで187年間の271冊におよぶ記録です。領内の産業・宗教・交通・風俗・年中行事などが記録されており、藩政期の政治、経済、文化を知る上で貴重な資料です。

## 鯛状珪石および噴泉塔

国天然記念物

湯沢市(旧雄勝町)



形がハタハタの卵に似ているのでプリコ石と呼ばれています。直径1.5～4mmほどの魚卵のような粒状の固まりで、色はほとんどが白灰色です。温泉成分の二酸化珪素が卵状に結晶したものです。

## 木地山のコケ沼湿原植物群落

県天然記念物

湯沢市(旧皆瀬村)



コケ沼は、木地山の標高約580mの地点にある高層湿原です。面積7.8haほどの水面の多くは、ミスコケ泥炭におおわれていて、湿原全体が浮島状になっています。

## 猿倉人形芝居

県無形民俗文化財

羽後町



鈴木榮太郎一座が伝承している人形芝居です。文楽人形をもとにした指ハサミ人形の形式で、「鬼神のお松」の早変わりの操作に特徴がみられます。

## 仙道番楽

県無形民俗文化財

羽後町



江戸時代初め、京都から来た修験者が山伏神楽を教えたのが始まりとされます。地区神社の祭礼、お盆・家の新築などに演じられます。鶏舞・五条が橋・獅子舞などの演目があります。

## 磨崖

県史跡

湯沢市(旧雄勝町)

磨崖は、岩壁の表面に仏像や文字を彫ったもので、死者を供養したりするためのものです。阿弥陀尊の種子(梵字)が刻まれていて、元亨2(1322)年の銘文から県内最古のものであります。